児童デイゆめときわ2　児童発達支援事業所自己評価結果（公表）

公表日：令和　6年　3月　15日

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6		人数次第では狭く感じるときはあるが、個室を活用して狭さを感じないよう工夫するようにしている。
	2	職員の配置数は適切であるか	6		基本人員2人＋加配１人配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された 環境になっている。また、障害の特性に応じ、事 業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等 への配慮が適切になされている	4	2	事業所に上がるための手段が階段しかなく、バリアフリー化が不十分。以前に比べると階段に手すりが付き改善されている箇所も増えてきた。 現在通所している児童の中に不便さを感じている児童はいない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境に なっている。また、子ども達の活動に合わせた空 間となっている	6		整理整頓や、毎日の掃除や除菌等を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標 設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		フロア会議で見直しを何度も行い、全職員が参加・共有・周知できるよう心がけている。まだ改善の余地がある。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等 の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		事業所評価は年に１回行っており、保護者からの意向・意見は把握し、改善できる点は改善できるようにしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価 表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び 改善の内容を、事業所の会報やホームページ 等で公開している	6		ホームページにて公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			該当事例なし。
適切な支援の提供	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を 確保している	6		年に６回以上研修を取り入れ、資料・感想等を記録に残している。また、外部の研修にも参加している。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニ ーズや課題を客観的に分析した上で、児童発 達支援計画を作成している	6		管理者が作成・周知を行い、保護者様に署名をいただいている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化 されたアセスメントツールを使用している	6		定められたフォーマットを利用して共有している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の 「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容か ら子どもの支援に必要な項目が適切に選択さ れ、その上で、具体的な支援内容が設定されて いる	6		本人の支援、家族支援、地域支援の支援内容は設定しているが、もっと具体的に設定できるところがあると思うので、改善の余地がある。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		職員全員が計画表を共有し、チームで支援が行えている。

内	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		職員全員で会議を行い子どもたちが様々な体験ができるように設定し、担当を決めて取り組んでいる。

	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		固定化しないよう配慮しているが、場所などがどうしても決まってしまうので遊び方のプログラムを変化させるよう検討の余地がある。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		平日は個別活動になりやすく、土曜・長期休暇は集団活動を主にできるように工夫している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		毎朝朝礼で打ち合わせ、共有をするようにしている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、そ の日行われた支援の振り返りを行い､気付いた 点等を共有している	6		何かあった時は職員間で共有し、その日に行えなかったことなどは記録に残し、次の日の朝礼でも共有するようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支 援の検証・改善につなげている	6		支援記録は毎日取り、問題点に関しては話し合い、改善できるよう努めている。利用が無くても重要な情報は記載している。
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計 画の見直しの必要性を判断している	6		会議を行い、児童一人一人の毎日の支援経過をもとに、必要であれば見直しを行っている。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会 議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい 者が参画している	6		基本は管理者が出席している。難しい場合は、代理の役割ができる職員が出席している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		関係機関とは連携を取るよう心がけている。なかなかコロナ禍で困難ではあるが、見学をさせてもらえる施設には行くこともある。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等 の関係機関と連携した支援を行っている			該当児童なし
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制 を整えている			該当児童なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支 援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		必要に応じて担当者会議を行い情報共有できるようにしている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		必要に応じて担当者会議を行い情報共有できるようにしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		見学や会議等をした際に、助言を受けたり情報共有できるようにしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある		5	コロナ禍でもあり、活動する機会はない。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		5	参加していない。できるよう検討する。
保護者への説	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子 どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	6		送迎時にはしっかりとコミュニケーションを取り、連絡帳、電話連絡でも共通理解を持てるよう努めている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント･ト レーニング等）の支援を行っている	5	1	職員によってできないこともある。保護者会等で必要に応じてアドバイスをしたり、ニーズや児童の特性にあったアドバイスなどを提案している。

明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に必ず管理者の方から説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、こ れに基づき作成された「児童発達支援計画」を 示しながら支援内容の説明を行い、保護者から 児童発達支援計画の同意を得ている	6		説明を行った上で署名・押印をもらっている。 またコピーを取り、控えとして保護者に渡すようにしている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者会や送迎時、電話対応にて保護者の気持ちに寄り添い助言やアドバイス等をさせてもらっている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援し ている	6		年に１回保護者会を実施している。保護者同士の情報共有や連携もとれるようにしている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	6		相談・申し入れがあったときは迅速な対応を心掛けている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	6		毎月ゆめ通信をイベント時の写真を付けて発行している。
非常時等の対応	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		十分注意しているか
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情 報伝達のための配慮をしている	6		配慮で来ていると思うが、まだ改善できる所もあるかもじれない。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6	コロナ禍で行っていない。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施 している	5	1	マニュアルは作成して各職員に周知しているが、職員によっては把握できていない者もいると思う。保護者にできていない部分があると思う。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年間行事にも取り込んでおり年２回以上行い、それ以外でも訓練を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこ どもの状況を確認している	6		アセスメント時に保護者様からの聞き取りで確認し、記録に残している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指 示書に基づく対応がされている	5	1	アレルギー調査票に記入してもらい、医師の指示に基づいた情報を保護者様から提供してもらっている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	6		毎月ヒヤリハットを提出している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		職員の研修に加え、虐待防止委員会を年に２回実施している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかに ついて、組織的に決定し、子どもや保護者に事 前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達 支援計画に記載している			身体拘束を行う児童がいないが十分配慮している。 また行う場合は、迅速に対応できるように準備をしている。